

令和の前の平成、その前の昭和と、時代はあっという間に過ぎていきます。そして私たちの暮らしも徐々に変わっていきます。

私たちの暮らしが、大きく変わった時期は、今から140～150年ほど前(明治時代)と50～60年ほど前(昭和40年前後)です。明治時代は、西欧諸国から色々な道具や服装、食べものなどが入ってきます。そして、昭和40年前後は高度経済成長期といわれ、核家族が増え、私たちの身の回りの道具が電気によって動くものになっていきます。

ここでは、その昭和40年前後の暮らしの変化を紹介します。

食べる

明治時代から、食事に洋食が加わります。それとともに、料理をするための台所が土間(どま)から板の間になり、料理をするための火の燃料が薪(まき)からガスに変わります。そして今では、調理台はオール電化になっているところもあります。

昭和40年代頃からは調理道具も、竹や木の製品から金属の製品に変わっていき、家電調理器具も増えます。そして核家族が増えたため、小さい調理道具が多くなりました。

江戸時代以前～高度経済成長期頃



羽釜



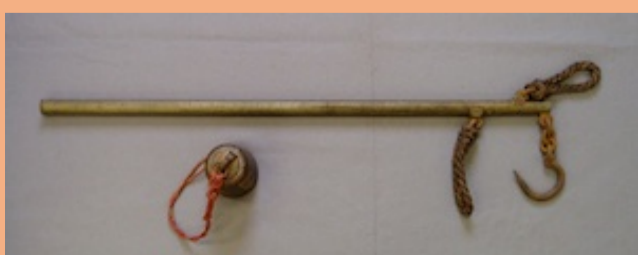
おひつ



升(ます)



甕(かめ)



棒秤(ぼうばかり)

明治期～高度経済成長期頃



マッチ



木製冷蔵庫

高度経済成長期～



電気釜

着る

明治時代に洋服が入り始め、普段着が洋服になるのは、昭和30～40年頃からです。洋服を作るためのミシンも登場します。はきものも下駄(げた)やぞうりから靴(くつ)に変わっていきます。また洗濯(せんたく)をする道具も手洗いから洗濯機に変わります。

江戸時代以前～高度経済成長期頃



張り板



下駄



唐傘

明治期～高度経済成長期頃



洗濯板



足踏みミシン



ミシンライト

高度経済成長期～

住まう

家族の多さによって住まいにも色々な大きさがありますが、核家族になった最初の頃は、家も小さく家族だんらんの場と食事の場、寝る場所も兼(か)ねているところも多くありました。そして昭和40年代から、都会に近いところでは団地ができていきます。その後、住まいは用途(ようと)を兼ねた部屋から、食堂、居間(いま)、寝室(しんしつ)、子ども部屋など個室に分かれた造りになっていきます。

江戸時代以前～高度経済成長期頃



火鉢



鉄瓶

明治期～高度経済成長期頃



ちゃぶ台



柱時計

高度経済成長期～



カラーテレビ



扇風機



あんか

遊ぶ

明治時代になって、安くなった紙やガラス、金属を使ったメンコやベーゴマ、ビー玉、おはじきなどのいろいろな遊びが登場します。学校から帰ったら、外で遊ぶ子どもがほとんどでした。昭和40年代からテレビの普及や、開発による遊び場の減少などによって、子どもが家で過ごすようになり、その後、ゲーム機が登場したため、外で遊ぶ子どもの姿は見るのが少なくなりました。

江戸時代以前～高度経済成長期頃



お手玉



ビー玉・おはじき



コマ・ベーゴマ



羽子板



すごろく



かるた

明治期～高度経済成長期頃



だるま落とし



着せ替え人形



ブリキのおもちゃ



けん玉



めんこ

高度経済成長期～



学習マンガ



ブリキの虫かご



プラスチック製おもちゃ

働く

当館のある場所は川沿いで、この付近では農業や漁業を営む人が多くいました。農業では水害に備え、二毛作(にもうさく)で、米と小麦を作る家も多くありました。今では、農業を行う人は少なくなり、会社勤めに出る人が多くなっています。

江戸時代以前～高度経済成長期頃

明治期～高度経済成長期頃

高度経済成長期～



風呂鍬(ふるぐわ) (田畑両用)



筥(うけ) (川魚漁道具)



代掻き馬鍬(しろかきまんが) (米作り道具)

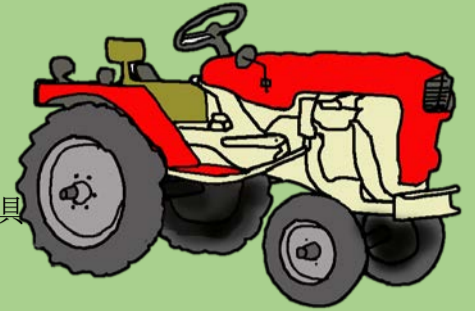


麦の種まき機 (麦作り道具)



引き鍬 (畑道具)

動力農耕機械登場



江戸時代以前～平成期



ボッチ笠(がさ)



女性用野良着 (上着)



日蓑(ひみの)



蓑(みの)



二斗(にと)ざる



背負い籠 (しよいかご)

高度経済成長期以降、わたしたちのくらははどんどん便利になっていきます。それとともに、大量生産、大量消費、大量廃棄(はいき)時代になります。そして環境汚染(かんきょうおせん)や地球温暖化(ちきゅうおんだんか)が進んでいきます。

近年は台風などにより、電気や水道などのライフラインが長い間止まる地域も出ました。この展示から、くらしの向上(こうじょう)と環境問題などについて考えていただけると幸いです。